

名古屋市の淡水産貝類

川瀬 基弘⁽¹⁾ 市原 俊⁽²⁾ 寺本 匡寛⁽³⁾ 鶴飼 普⁽⁴⁾

- (1) 愛知みずほ大学人間科学部 〒467-0867 愛知県名古屋市瑞穂区春敲町2-13
 (2) 名古屋文理大学短期大学部 〒451-0077 愛知県名古屋市西区笹塚町2-1
 (3) なごや生物多様性センター 〒468-0066 愛知県名古屋市天白区元八事五丁目230番地
 (4) 三河淡水生物ネットワーク

Freshwater mollusks in Nagoya city, Aichi Prefecture, Japan

Motohiro KAWASE⁽¹⁾ Takashi ICHIHARA⁽²⁾
 Tadahiro TERAMOTO⁽³⁾ Futoshi UKAI⁽⁴⁾

- (1) Department of Human Science, Aichi Mizuho College, 2-13 Shunko-cho, Mizuho-ku, Nagoya, Aichi 467-0867, Japan.
 (2) College of Nagoya Bunri University, 2-1 Sasatsuka-cho, Nishi-ku, Nagoya, Aichi 451-0077, Japan.
 (3) Nagoya Biodiversity Center, 5-230 Motoyagoto, Tempaku-ku, Nagoya, Aichi 468-0066, Japan.
 (4) Mikawa Freshwater Life Network

Correspondence:

Motohiro KAWASE E-mail: kawase@mizuho-c.ac.jp

要旨

2008年～2017年に行われた名古屋市内での現地調査の結果、25種の淡水産貝類を生貝で確認した。また、文献記録や博物館収蔵庫の調査により、生貝を確認できなかった9種の記録や標本を確認した。その結果、名古屋市に棲息している淡水産貝類および絶滅した淡水産貝類は、合計34種であった。これらの34種について標本写真とあわせて簡単に記録する。

はじめに

著者らによる2008年～2017年に行われた名古屋市内での現地調査の結果、25種の淡水産貝類を生貝で確認した。この結果には2017年9月1日、2日、3日に行われた「なごや生きもの一斉調査・2017 淡水貝編～なごやで探そう！水の中の妖精～」の調査結果の一部（名古屋市初記録種など）も含まれている。ただし、「なごや生きもの一斉調査・2017」の詳細な結果については、2018年に発行予定の報告書に掲載されるため、ここでは割愛する。

名古屋市内の淡水産貝類に関する情報のまとまった文献は比較的少なく、愛知県教育センター（1967）、名古屋市動植物実態調査検討会（2004, 2010）、名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課（2015）に多少の記載が

見られる。しかし、愛知県教育センター（1967）に掲載された名古屋市産淡水貝と採集地の情報は、田中（1964 [謄写版]）からの引用であり、本文中の淡水産貝類に関する記述は断片的である。また、名古屋市動植物実態調査検討会（2004, 2010）の名古屋市産貝類目録は、位置情報などが示されておらず種名のみを羅列であるため、レッドデータブック該当種以外の詳細情報は掲載されていない。同様に、名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課（2015）もレッドデータブック該当種以外の詳細情報は掲載されていない。

今回、「名古屋市産淡水産貝類の研究（田中, 1964 [謄写版]）」を閲覧する機会があり、内容を確認したところ、1950～1960年代の名古屋市に棲息していた淡水産貝類の情報が詳細に記されていた。種毎に標本のスケッチが

なされており、同定精度は極めて高いと判断された。しかし、この資料（田中，1964 [謄写版]）は、出版社等から発行された正式な出版物（自刊を含む）ではないため、一部の教育関係者や研究関係者にしか配布されなかったようである。この資料は名古屋市の淡水産貝類の変遷を知るうえで欠かせない資料であり、レッドリスト種の選定においては重要な証拠となることは確実である。そこで、今回報告する34種のデータとして、田中（1964 [謄写版]）に位置情報が掲載されている種については、1950～1960年代の記録として全ての位置情報を引用して掲載する。なお、田中（1959 [謄写版]）の「愛知県産淡水産貝類目録」に、数地点の名古屋市内の情報が含まれているため、田中（1964 [謄写版]）の情報を

2つの目録資料をあわせた1950～1960年代の記録として取り扱った。

各種の解説

名古屋市に棲息している淡水産貝類および絶滅した淡水産貝類34種について簡単に解説する。各種解説中または解説末尾に、田中（1964）の確認地点を列記し位置情報を図1に示した。写真図版の番号は以下の和名の前の連続番号に一致する。標本写真については、できる限り名古屋市産の標本を撮影したが、入手できなかった種や市内から絶滅した種については、愛知県産の標本を撮影し、県内からも絶滅している場合は岐阜県産の標本を撮影した。

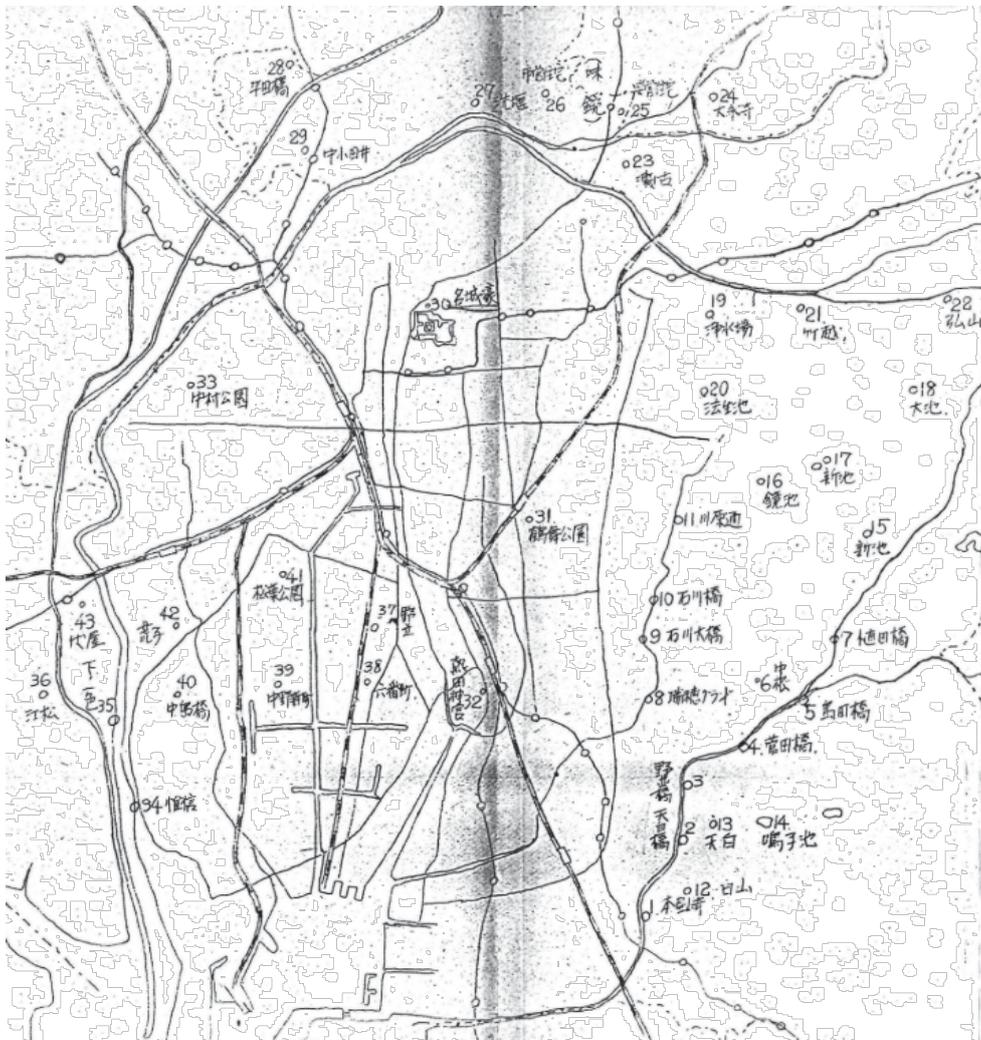


図1. 田中（1964）の位置情報

1. マルタニシ

Cipangopaludina chinensis laeta (Martens, 1860)

標本：名古屋市守山区(詳細不明)

名古屋市では絶滅危惧ⅠA類に指定されている(名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 2015)。酒井(2002)の守山区での記録(内容が約10年前の記録なので実際には1992年頃の記録)を最後に、「レッドデータブックなごや2004」の調査時にもマルタニシの生体は確認されていない(木村, 2004および木村, 私信)。市内から絶滅した可能性もあったが, 2013年に中川区江松西町および中川区富田町で再発見された(川瀬・石黒, 2015)。その後も中川区の複数地点の水田や水路で棲息が確認されているが, 開発工事のために埋め立てられた水田もある。在来個体か否かは不明であるが, 名古屋市千種区不老町の名古屋大学農学部圃場からもマルタニシの生貝が発見されている(野呂・川瀬, 2018)。

田中(1964)の確認地点: 本星崎, 島田橋, 中根, 植田橋, 鳴海・白山, 鳴海・天白, 鳴子池, 猪高大池, 覚王山・法生池, 汁谷・竹越, 猪高弘山, 守山瀬古, 守山大永寺, 味鏡県営住宅, 平田橋・神明, 中小田井, 鶴舞公園, 下ノ一色, 富田町江松, 中野新町, 中島橋, 荒子, 富田町伏屋。

2. オオタニシ

Cipangopaludina japonica (Martens, 1860)

標本：名古屋市中区本丸1

名古屋市では絶滅危惧Ⅱ類に指定されている(名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 2015)。守山区小幡緑地大池, 守山区小幡緑地竜巻池, 天白区天白公園大根池など, 限られた溜池だけに生き残っている。竜巻池と大根池では, 棲息個体数が少ないことが報告されている(川瀬・野呂, 2013)。

田中(1964)の確認地点: 野並橋, 植田橋, 川原通, 鳴海・白山, 鳴海・天白, 鳴子池, 東山裏新池, 鏡池, 東山新池, 猪高大池, 覚王山・法生池, 汁谷・竹越, 味鏡市営住宅, 洗堰・蛇池, 名城濠, 中野新町。

3. ヒメタニシ

Sinotaia quadrata histrica (Gould, 1859)

標本：名古屋市港区七島2丁目

汚濁耐性が強く, 名古屋市内各地の水田, 水路や溜池に広く分布し, 各地の棲息密度は高いことが多い。ほぼ名古屋市内全域に分布すると推定される。

田中(1964)の確認地点: 鏡池, 覚王山・法生池, 汁谷・竹越, 洗堰・蛇池, 平田橋・神明, 中小田井, 名城濠, 鶴舞公園, 中村公園, 下ノ一色, 富田町江松, 野立, 松葉公園。

4. スクミリングガイ

Pomacea canaliculata (Lamarck, 1819)

標本：名古屋市中川区万町(水田)

南米原産の外來種でジャンボタニシと呼ばれ日本各地に分布を広げている。国内へは1981年に台湾を経由し, 食用として導入された。1985年頃にはほとんどの業者が廃業し, 水稻への被害が顕著化した(日本生態学会編, 2002; 池田, 2006)。前述のとおり, 国内へは1981年の導入のため, 田中(1964)には記録がない。

5. マメタニシ

Parafossarulus manchouricus japonicus (Pilsbry, 1901)

標本：滋賀県大津市堅田

絶滅危惧ⅠA類に指定されているが, 名古屋市内から既に絶滅している可能性がある(名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 2015)。著者等による10年間の調査においても本種の棲息を確認できなかった。

田中(1964)の確認地点: 洗堰・蛇池, 名城濠, 鶴舞公園, 松葉公園。

6. ヌノメカワニナ

Melanoides tuberculata (Muller, 1774)

標本：名古屋市中川区八田(水の広場)

世界各地の亜熱帯から熱帯地方にかけて広く分布するコスモポリタン種であり, 国内では鹿児島県南部以南が自然分布と考えられている。また, 本州や九州の温泉地や温排水路などで繁殖しているのは人為的な移入とされている(増田・内山, 2004)。名古屋市内では中川区を流れる荒子川の上流部で棲息記録が残されており, ヌノメカワニナの棲息場所付近の小河川は, 工場排水の影響により一年中高水温が維持され, カダヤシやティラピアが確認されたことも記されている(松岡・高見, 1993)。

なごや生きもの一斉調査・2017において、千種区香流川(香流橋付近)[死殻幼貝1個体のみ]と中川区八田(水の広場)[生貝13個体]で新たに発見された。

7. カワニナ

Semisulcospira libertina (Gould, 1859)

標本：名古屋市守山区大矢川(上志段味)

本種は1950~60年代に市内各地に棲息していたが(田中, 1964), 1980年代には名古屋市内でほとんど見られなかったという情報があり, 市内では絶滅または絶滅寸前まで棲息地が減少した可能性が高い。現在の名古屋市内の棲息地については, ホタル養殖やビオトープ作りによりカワニナ類が人為的に放流された場所が多く, カワニナの自然分布については確認できなかった。

田中(1964)の確認地点：本星崎, 天白橋, 野並橋, 菅田橋, 島田橋, 中根, 植田橋, 石川大橋, 鳴海・白山, 鳴海・天白, 覚王山・法生池, 汁谷・竹越, 猪高弘山, 守山瀬古, 味鋤県営住宅, 味鋤市営住宅, 洗堰・蛇池, 中小田井, 名城濠, 下ノ一色, 富田町江松, 野立, 中野新町[←カワニナとミスジカワニナの採集地を統合して示した]。

8. チリメンカワニナ

Semisulcospira reiniana Brot, 1877

標本：名古屋市昭和区鶴舞公園(胡蝶ヶ池)

1950~60年代に市内からの記録はなく(田中, 1964), 現在の棲息地については, 前種カワニナと同様にチリメンカワニナが人為的に放流された可能性が高い。

9. ヒメモノアラガイ

Galba ollula (Gould, 1859)

標本：名古屋市千種区茶屋ヶ坂公園(茶屋ヶ坂池)

汚濁耐性が比較的大きいと考えられ, 市内各地に棲息している。

田中(1964)の確認地点：本星崎, 野並橋, 菅田橋, 島田橋, 中根, 瑞穂グランド前, 石川大橋, 石川橋, 川原通, 鳴海・天白, 鳴子池, 東山裏新池, 鏡池, 東山新池, 猪高大池, 大幸貯水場付近, 覚王山・法生池, 汁谷・竹越, 猪高弘山, 守山瀬古, 守山大永寺, 味鋤県営住宅, 味鋤市営住宅, 洗堰・蛇池, 平田橋・神明, 中小田井,

名城濠, 鶴舞公園, 熱田神宮, 中村公園, 惟信高校西, 下ノ一色, 富田町江松, 野立, 六番町, 中野新町, 中島橋, 松葉公園, 荒子, 富田町伏屋。

10. コシダカヒメモノアラガイ

Galba truncatula (Muller, 1774)

標本：愛知県豊田市梨野町(下山地区)

現地調査では発見できなかった。ヨーロッパ原産の外来種と考えられるが, 在来種の可能性も否定できないことが指摘されている(増田・内山, 2004)。

田中(1964)の確認地点：本星崎, 野並橋, 鳴海・天白, 東山裏新池, 鏡池, 東山新池, 大幸貯水場付近, 覚王山・法生池, 洗堰・蛇池, 名城濠, 鶴舞公園, 中村公園, 松葉公園。

11. ハブタエモノアラガイ

Pseudosuccinea columella (Say, 1817)

標本：名古屋市緑区文久山竈池

北アメリカ原産の外来種で, 水草などに付着した卵塊によって棲息域を拡大していると考えられている(紀平ほか, 2003)。田中(1964)によれば1950~60年代には名古屋市内で確認されていない。

12. モノアラガイ

Radix (Radix) japonica Jay, 1857

標本：愛知県加茂郡猿投町(1960年3月11日採集) 鳳来寺山自然科学博物館所蔵

名古屋市では絶滅危惧I B類に指定されているが(名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 2015), 名古屋市に棲息していた本種は, 絶滅していたことが報告された(川瀬, 2018)。

田中(1964)の確認地点：鳴海・天白, 鳴子池, 鏡池, 覚王山・法生池, 味鋤市営住宅, 洗堰・蛇池, 中小田井, 名城濠, 下ノ一色, 富田町江松。

13. モノアラガイ属の一種A

Radix sp. A

標本：名古屋市港区品川町(荒子川公園)

なごや生きもの一斉調査・2017の下見において, 名古屋市港区品川町(荒子川公園)で発見された。名古屋

市内からは初記録と思われる。発見場所の環境は、人工的な水路であり、外来種のサカマキガイとともに高密度に棲息していた。福田ほか (2010) により、岡山県児島湖から報告された *Radix* sp. A (福田ほか, 2010, Figure 2-H) と同種と考えられる。従来日本から報告されていたモノアラガイ科の中には、本種に完全に合致するものはないとされており (福田ほか, 2010)、外来種である可能性が高い (川瀬, 2018)。愛知県豊田市中金町、岐阜県岐阜市則松3、愛知県新城市中宇利からも同種と考えられる個体の発見が相次いでいる (川瀬, 2018)。

14. モノアラガイ属の一種B

Radix sp. B

標本：名古屋市港区品川町 (荒子川公園)

前種モノアラガイ属の一種Aに混生する形で、名古屋市港区品川町荒子川公園内の人工水路内で1個体のみ発見された。前種に比べて殻口が横に広がることで区別できる。むしろモノアラガイ *Radix* (*Radix*) *japonica* によく似るが、モノアラガイより扁平である。また、イグチモノアラガイ (ヒロクチモノアラガイ) *R.* (*R.*) *auricularia* にも似ているが、イグチモノアラガイをモノアラガイ *R.* (*R.*) *japonica* と同種とする意見もある (肥後・後藤, 1993)。殻口には成長傷が観察できるため、前種の個体変異の可能性もあるが、現時点では殻形態により前種と明確に識別できるため別種とした。遺伝子解析により前種との比較を行う予定である。

15. サカマキガイ

Physa acuta (Draparnaud, 1805)

標本：名古屋市千種区東山新池

佐久間・宮本 (2005) によれば、原産地はヨーロッパであり、被害事例の報告はないが驚異的な繁殖力で、局所的な圧迫を受けている生物がいる可能性が指摘されている。都市の下水路など汚水中でも棲息することができ、水田や溜池、水路、湿地などの人口的な環境で有機物が多い浅い場所に多産する (増田・内山, 2004)。

田中 (1964) の確認地点：本星崎、菅田橋、島田橋、中根、植田橋、石川大橋、石川橋、鳴海・白山、鳴海・天白、東山裏新池、鏡池、猪高大池、覚王山・法生池、猪高弘山、守山瀬古、守山大永寺、味鏡県営住宅、味鏡

市営住宅、洗堰・蛇池、平田橋・神明、中小田井、名城濠、鶴舞公園、中村公園、下ノ一色、富田町江松、野立、六番町、中野新町、松葉公園、荒子、富田町伏屋。

16. ヒラマキミズマイマイ

Gyraulus chinensis (Dunker, 1854)

標本：名古屋市中村区城屋敷町1丁目

名古屋市では準絶滅危惧に指定されている (名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 2015)。川瀬ほか (2016) により、名古屋市中川区東かの里町、港区新茶屋、中村区城屋敷町、北区楠町大字喜惣治新田、守山区太田井の個体の遺伝子分析の結果が示されている。

田中 (1964) の確認地点：鏡池、平田橋・神明、名城濠、熱田神宮。

17. ヒメヒラマキミズマイマイ

Gyraulus pulcher (Mori, 1938)

標本：名古屋市北区喜惣治新田

名古屋市北区喜惣治新田のみから発見されているが、その後の調査では名古屋市内から追加の発見がない。前種ヒラマキミズマイマイと比較して、ヒメヒラマキミズマイマイはCOI領域の変異が少ないことが報告されている (川瀬ほか, 2016)。本種の学名については、Mori (1938: 289-290, pl. 14, fig. 7) による *Anisus* (*Gyraulus*) *pulcher* のホロタイプ (京都大学総合博物館所蔵) がヒラマキミズマイマイとみなされるものであったことが報告されており (齊藤ほか, 2017)、変更される可能性が高い。田中 (1964) には記録がない。

18. ヒラマキガイモドキ

Polypylis hemisphaerula (Benson, 1842)

標本：名古屋市守山区太田井 (水田)

名古屋市では準絶滅危惧に指定されている (名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 2015)。著者らによる10年間の調査では確認地点が極めて少なく、なごや生きもの一斉調査・2017においても1地点のみでしか棲息を確認できなかった。各棲息地における棲息個体数も極めて少ないため、準絶滅危惧から絶滅危惧Ⅱ類へのカテゴリ変更の検討が必要である。

田中 (1964) の確認地点：平田橋・神明、熱田神宮。

19. クルマヒラマキガイ (レンズヒラマキガイ)

Hippeutis cantori (Benson, 1850)

標本：名古屋市瑞穂区山崎川 (鼎小橋)

なごや生きもの一斉調査・2017において、名古屋市から初めて発見された。本種は環境省の絶滅危惧Ⅱ類に指定されている(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2014)。本種は、近畿地方から沖縄地方に分布するが(増田・内山, 2004)、人為的移入による分布拡大が指摘されている(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2014)。棲息場所の環境や同地点における過去の調査などから総合的に判断して、今回発見された個体群は移入個体群の可能性が高い。

20. ヒロマキミズマイマイ

Menetus dilatatus (Gould, 1841)

標本：名古屋市瑞穂区松園町 (山下橋付近)。

北アメリカ原産とされる本種は、既に新潟県新潟市西区(野村, 2005)、石川県津幡町川尻(野村・高橋, 2006)、岐阜県羽島市桑原町、愛知県名古屋市北区、神奈川県川崎市多摩区(吉成ほか, 2010)、愛知県西尾市(川瀬ほか, 2016)、滋賀県(齊藤・平野, 2017)で発見されており、最初の国内の発見記録から10年以上が経過しており、さらに国内の分布域を拡大していると考えられる。田中(1964)の報告は侵入以前のため本種の記録はない。

21. カワネジガイ

Camptoceras hirasei Walker, 1919

標本：和歌山県那珂郡岩出町

鳳来寺山自然科学博物館所蔵の天野景従コレクションに、名古屋市児玉町の標本があることが報告されているが(原田, 1983)、名古屋市内からは絶滅している(名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 2015)。本種は環境省の絶滅危惧ⅠA類に指定されている(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2014)。日本各地で本種の絶滅が報告され、2010年時点で1990年代以降新たに確認された個体群は全国で4箇所のみである(阿部・福田, 2010)。

22. カワコザラガイ

Laevapex nipponica (Kuroda, 1947)

標本：名古屋市守山区才井戸流 (ビオトープ)

名古屋市内における最近の記録は比較的少なかったが、なごや生きもの一斉調査・2017により、守山区才井戸流、港区荒子川公園、守山区雨池公園、名東区猪高緑地など、棲息確認地点が増えている。

田中(1964)の確認地点：瑞穂グランド前、石川大橋、鏡池、覚王山・法生池、汁谷・竹越、守山瀬古、味鋺県営住宅、味鋺市営住宅、洗堰・蛇池、平田橋・神明、名城濠、鶴舞公園、中村公園、下ノ一色、富田町江松、松葉公園。

23. イシガイ

Unio (Nodularia) douglasiae nipponensis v. Martens, 1877

標本：愛知県豊田市平戸橋町 (矢作川)

名古屋市では絶滅危惧ⅠA類に指定されている(名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 2015)。名古屋市守山区の小幡緑地公園の緑ヶ池で1995年の渇水期に多数の死殻が確認されているが(酒井, 2002)、この記録を最後に名古屋市内からは全く発見されておらず市内から絶滅した可能性がある。

田中(1964)の確認地点：天白橋、野並橋、菅田橋、島田橋、中根、植田橋、鳴海・白山、鳴海・天白、東山裏新池、鏡池、猪高弘山、守山瀬古、守山大永寺、味鋺市営住宅、洗堰・蛇池、名城濠、鶴舞公園、下ノ一色、富田町江松、野立、中野新町、中島橋、荒子、富田町伏屋。

24. オバエボシガイ

Inversidens brandti (Kobelt, 1879)

標本：岐阜県関市肥田瀬

レッドデータブックなごや2015(名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 2015)には掲載されていないが、かつて名古屋市内(鳴海・天白)に棲息していた確実な記録があり(田中, 1964)、愛知県内から既に絶滅しているため(愛知県環境調査センター, 2009)、名古屋市のレッドリストやレッドデータブックにも「絶滅」としてオバエボシガイを追記すべきである。

25. マツカサガイ

Inversidens (Pronodularia) japonensis (Lea, 1859)

標本：愛知県新城市三河富岡

愛知県では絶滅危惧 I A 類に指定されており(愛知県環境調査センター, 2009), 名古屋市内では, 1950~60年代に島田橋, 中根, 植田橋, 鳴海・白山, 鳴海・天白, 汁谷・竹越, 味鋺市営住宅に棲息していた確実な記録がある(田中, 1964). しかし, 近年の調査によりマツカサガイが名古屋市内に生き残っている可能性はないと考えられる. レッドデータブックなごや2015(名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 2015)には掲載されていないが, 名古屋市のレッドリストやレッドデータブックにも「絶滅」としてマツカサガイを追記すべきである.

26. トンガリササノハガイ

Lanceolaria grayana (Lea, 1834)

標本：愛知県豊田市平戸橋町(矢作川)

愛知県では絶滅危惧 I A 類に指定されており(愛知県環境調査センター, 2009), 名古屋市内では, 1950~60年代に鳴海・白山, 鳴海・天白, 味鋺市営住宅に棲息していた確実な記録がある(田中, 1964). しかし, 近年の調査でトンガリササノハガイが名古屋市内に生き残っている可能性はないと考えられる. レッドデータブックなごや2015(名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 2015)には掲載されていないが, 名古屋市のレッドリストやレッドデータブックにも「絶滅」としてトンガリササノハガイを追記すべきである. なお, 本種については, 尾張岩塚村[名古屋市中村区岩塚町](岩川, 1919)や瑞穂区山崎川水系[昭和30~40年代](川瀬ほか, 2016)に棲息していたことが報告され, 同様の指摘がなされている(川瀬ほか, 2016).

27. カタハガイ

Obovalis omiensis (Heimburg, 1884)

標本：岐阜県関市下有知

かつて名古屋市内(植田橋, 鳴海・天白, 汁谷・竹越, 猪高弘山, 味鋺市営住宅, 鶴舞公園)に棲息していた確実な記録があるため(田中, 1964), レッドデータブックなごや2015(名古屋市環境局環境企画部環境活動推

進課, 2015)には掲載されていないが, 愛知県内から既に絶滅しているため(愛知県環境調査センター, 2009), 名古屋市のレッドリストやレッドデータブックにも「絶滅」としてカタハガイを追記すべきである.

28. タガイ

Anodonta japonica Clessin, 1874

標本：名古屋市守山区牛牧ハナレ松(見返池)

名古屋市では絶滅危惧 I A 類に指定されている(名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 2015). ドブガイ類は, 紀平(1990)によれば, タガイ, ヌマガイ, ドブガイの3種または3型に分けられていた. その後, この3種または3型はドブガイ *Anodonta woodiana* (Lea, 1834) に統一されるものの, アイソザイム分析やグロキジウム幼生などの研究が進み, タガイ *Anodonta japonica* Clessin とヌマガイ *Anodonta lauta* Martens に分けられている(田部ほか, 1994; 近藤ほか, 2006; 近藤, 2008). 従って, 下記に示す田中(1964)の同定による“タガイ”の産地情報が, 最新分類によるタガイ *Anodonta japonica* の産地情報に該当するか否かは不明である.

田中(1964)の確認地点：天白橋, 野並橋, 菅田橋, 島田橋, 中根, 植田橋, 鳴海・白山, 鳴海・天白, 鳴子池, 東山裏新池, 鏡池, 東山新池, 猪高大池, 覚王山・法生池, 汁谷・竹越, 猪高弘山, 守山瀬古, 味鋺市営住宅, 洗堰・蛇池, 中小田井, 名城濠, 鶴舞公園, 惟信高校西, 野立, 中島橋, 富田町伏屋.

29. ヌマガイ

Anodonta lauta Martens, 1877

標本：名古屋市千種区平和公園2丁目(猫ヶ洞池)

名古屋市では絶滅危惧 I B 類に指定されている(名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 2015). 2009~2012年に市内15の溜池(守山区竜巻池/安田池/八竜新池/雨池/見返ヶ池, 緑区籠池/水広下池, 中区名古屋城外堀, 名東区明德池/塚ノ杖池, 天白区大根池/荒池, 昭和区隼人池, 千種区猫ヶ洞池/東山新池)で池干しや鋤簾により調査が行われ, このうちヌマガイは竜巻池, 雨池, 見返ヶ池, 明德池, 大根池, 猫ヶ洞池の6箇所確認されている(川瀬・野呂, 2013). 前種タガイ

において記述したとおり、ヌマガイについても同様に、田中(1964)の同定種と一致するか否かは不明である。

田中(1964)の確認地点：中小田井。

30. マシジミ

Corbicula leana Prime, 1864

標本：名古屋市中川区富田町大字千音寺(水路)

名古屋市では絶滅危惧ⅠA類に指定されている(名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 2015)。本種と次種タイワンシジミの識別点は、マシジミの方が殻表面は黒や黒褐色の濃色であること、肋間がやや不規則に配列すること、殻頂付近の表面が赤みを帯びないことに基づいた。中川区富田町大字千音寺の大型個体(殻長約45mm, 殻高約40mm)は、上記の特徴をもつことから本種に同定した。ただし、最近の研究によれば、マシジミとタイワンシジミを種として区別できない可能性があることも指摘されており(川瀬, 2016)、マシジミは近世期の外来種である可能性が高いとされている(黒住, 2014)。

田中(1964)の確認地点：本星崎, 天白橋, 野並橋, 菅田橋, 島田橋, 中根, 植田橋, 鳴海・白山, 鳴海・天白, 東山裏新池, 鏡池, 大幸貯水場付近, 覚王山・法生池, 汁谷・竹越, 守山瀬古, 味鏡市営住宅, 平田橋・神明, 中小田井, 鶴舞公園, 下ノ一色, 富田町江松, 野立, 中野新町, 中島橋, 富田町伏屋。

31. タイワンシジミ

Corbicula fluminea (Muller, 1774)

標本：名古屋天白区植田川(元八事)

本種は中国・朝鮮半島などから侵入した外来種であり、日本各地に分布を広げ、在来種である前種マシジミとの交雑や競争的置換が懸念されている(日本生態学会編, 2002)。タイワンシジミは日本産マシジミと非常によく似ており形態変異も大きく識別困難な場合がある。また、マシジミはタイワンシジミのシノニムとされる(Morton, 1986; 山田ほか, 2010; 酒井ほか, 2014)など、文献により異なる原著見解が示されている。

32. タイリクシジミ

Corbicula fluminalis (Muller, 1774)

標本：名古屋市守山区牛牧長根(竜巻池)

2012年10月24日に名古屋市守山区の竜巻池で発見された外来シジミが(川瀬・市原, 2013)、中国に棲息する本種(Muller, 1774)に同定された(川瀬, 2016)。竜巻池への移入経路は明らかでないが、最近、名古屋市内のスーパーなどで中国産やロシア産のシジミが出回っていることから、このような食用種の流通が原因ではないかと考えられる。

33. ウエジマメシジミ

Pisidium (Odhneripisidium) uejii Mori, 1938

標本：名古屋市天白区梅が丘

名古屋市では絶滅危惧ⅠB類に指定されている(名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 2015)。本属は日本国内から20種程度が報告されているが(Mori, 1938, 黒田, 1963)、非常に微小な種が多いため、各地の詳細な分布・棲息状況は十分に調べられていない。調査で得られた標本は、殻の膨らみの強い個体や背縁が直線的な個体など多少の変異があるものの、殻表、殻頂、ヒンジ(鉸歯)や軟体部の形態に大きな違いはなく、いずれも同一種と判断された。本種は、鰓に外鰓がないほか、殻頂部の鉸板が非常に狭いため靱帯が殻内面に裸出する特徴があり、稲葉・家山(2006)に従い亜属 *Odhneripisidium* とした。さらに、背側からみた靱帯の形が三角形状になり、棒状になる他種とは区別できたのでウエジマメシジミに同定した。田中(1964)のリストには掲載されていない。

34. ドブシジミ

Sphaerium japonicum (Westerlund, 1883)

標本：名古屋市千種区不老町(名古屋大学農学部圃場)

本種は、富栄養化した流れの緩やかな水路に多産するとされる(木村, 1994)。しかし、名古屋市内における確認地点数、棲息個体数とも極めて少ないため、名古屋市のレッドデータブックには掲載されていないが(名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 2015)、準絶滅危惧または絶滅危惧Ⅱ類としての掲載を検討すべきであろう。本種はツノイロドブシジミ属 *Sphaerium* ではなくドブシジミ属 *Musculium* の種であることが指摘されている(楽原, 2011)。

田中(1964)の確認地点:汁谷・竹越, 守山瀬古, 平田橋・神明, 鶴舞公園.

まとめ

文献資料等の調査と10年間の現地調査により, 名古屋市に棲息している淡水産貝類および絶滅した淡水産貝類は34種であった. このうち名古屋市から絶滅したのは6種(モノアラガイ, カワネジガイ, オバエボシガイ, マツカサガイ, トンガリササノハガイ, カタハガイ)であった. しかし, 絶滅した6種の中で, 「名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや2015—動物編—」に掲載されているのは, カワネジガイだけである. 今後, 名古屋市のレッドデータブックやレッドリストが改訂される際には, 残りの5種についても追記すべきである. マメタニシとイシガイについては, 名古屋市内から絶滅した可能性が高まった.

一方, 市内に棲息する淡水産貝類の明らかな外来種は6種(スクミリンゴガイ, ハブタエモノアラガイ, サカマキガイ, ヒロマキミズマイマイ, タイワンシジミ, タイリクシジミ)であった. また, モノアラガイ属の一種Aとモノアラガイ属の一種Bは外来種である可能性が高く, 名古屋市で絶滅危惧I A類に指定されているマシジミも近世期の外来種である可能性が高いことが指摘された. ヌノメカワニナとクルマヒラマキガイは国内移入種である可能性が高く, 現在名古屋市内で見られるカワニナとチリメンカワニナも国内移入個体群が多いことが推定された. コシダカヒメモノアラガイについては在来種か外来種か判明しなかった.

謝辞

この報告をまとめるにあたり, 名城大学農学部生物環境科学科の長野宏佑氏と三河淡水生物ネットワークの鳥居亮一氏には現地調査にご協力いただいた. 愛知教育大学附属高等学校教諭の酒井 類氏には, 1980年代~2000年代の名古屋市内の淡水産貝類の棲息状況についてご教示いただいた. 名古屋貝類談話会の河合秀高氏には, 文献資料をご提供いただいた. 名古屋市動植物実態調査検討会委員の天野 勲氏には, 田中守彦氏(田中, 1959, 1964)の当時の研究調査活動についてご教示いただいた. この場をお借りして以上の方々にお礼申し上げる.

引用文献

- 阿部 司・福田 宏. 2010. 絶滅危惧種カワネジガイ(腹足綱:有肺目:ヒラマキガイ科)の岡山県における新産地. *Molluscan Diversity*, 2(2): 37-41.
- 愛知県環境調査センター. 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち2009—動物編—. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋. 651pp.
- 愛知県教育センター. 1967. 愛知の動物. 愛知県科学教育センター, 名古屋. 222pp.
- 福田 宏・石川 旬・村上 亘(2010)岡山県児島湖の現生淡水産貝類相. *Molluscan Diversity*, 1(2): 37-47.
- 原田一夫. 1983. 天野コレクション概報(その2)—淡水の部—. 鳳来寺山自然科学博物館館報, (12): 31-34.
- 肥後俊一・後藤芳央. 1993. 日本及び周辺地域産軟体動物総目録. エル貝類出版局, 八尾. 693pp.
- 池田清彦. 2006. 外来生物辞典. 東京書籍, 東京. 206pp.
- 稲葉 修・家山博史. 2006. 福島県で見つかったマメシジミ類. *ちりばたん*, 37(2): 62-65.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室. 2014. レッドデータブック2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物—6 貝類. 株式会社ぎょうせい, 東京. 455pp.
- 川瀬基弘. 2016. 名古屋市守山区で発見されたタイリクシジミ. *なごやの生物多様性*, 3: 65-67.
- 川瀬基弘. 2016. VII 軟体動物. 豊田市生物調査報告書作成委員会(著). 豊田市生物調査報告書〈分冊その1〉, pp.309-341, 口絵13-15. 豊田.
- 川瀬基弘. 2018. 名古屋市内から絶滅したモノアラガイ *Radix auricularia japonica* Jay, 1857. *なごやの生物多様性*, 5: 27-31.
- 川瀬基弘・市原 俊. 2013. 名古屋市守山区で発見された外来シジミ. *かきつばた*, (38): 63.
- 川瀬基弘・石黒鎌三. 2015. 名古屋市内で再発見されたマルタニシ. *なごやの生物多様性*, 2: 33-34.
- 川瀬基弘・松原美恵子・森山昭彦. 2016. 愛知県西三河地域から採集されたヒラマキガイ属3種:形態と遺伝子情報による解析. *陸の水*, 74: 43-48.
- 川瀬基弘・野呂達哉. 2013. 名古屋市におけるヌマガイとオオタニシの生息状況. *かきつばた*, 38: 56.
- 川瀬基弘・大矢美紀・松原美恵子・森山昭彦. 2016. 名古屋市瑞穂区に生息していたトンガリササノハガイ. *な*

- ごやの生物多様性, 3: 55-60.
- 川瀬基弘・鳥居亮一・松原美恵子・森山昭彦. 2016. 西尾市で発見されたヒロマキミズマイマイと近縁種について. 新編西尾市史研究, (2): 60-63.
- 紀平 肇. 1990. 琵琶湖・淀川淡水貝類. たたら書房, 鳥取. 131pp.
- 紀平 肇・松田征也・内山りゅう. 2003. 日本産淡水貝類図鑑①琵琶湖・淀川産の淡水貝類. ピーシーズ, 東京. 159pp.
- 木村昭一. 1994. 東海地方の淡水貝類相. 研究彙報 (全国高等学校水産教育研究会), 33: 14-34.
- 木村昭一. 2004. ⑧貝類. 名古屋市動植物実態調査検討会 (監修). 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや2004—動物編一, pp.263-292. 名古屋市環境局環境都市推進部環境影響評価室, 名古屋.
- 近藤高貴. 2008. 日本産イシガイ目貝類図譜. 日本貝類学会特別出版物第3号. 日本貝類学会, 東京. 69pp.
- 近藤高貴・田部雅昭・福原修一. 2006. ドブガイに見られる遺伝的2型のグロキディウム幼生の形態. Venus, 65(3): 241-245.
- 栗原康裕. 2011. 北海道東部におけるドブシジミ科貝類相. 日本貝類学会平成23年度福岡大会研究発表要旨集: 18-19.
- 黒田徳米. 1963. 日本非海産貝類目録. 日本貝類学会, 東京. 71pp.
- 黒住耐二. 2014. 淡水二枚貝マシジミは近世期の外来種か—遺跡出土貝類からの証明. 高梨学術奨励金年報 (平成25年度研究成果概要報告): 67-73.
- 増田 修・内山りゅう. 2004. 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ, 東京. 240pp.
- 松岡敬二・高見明宏. 1993. 愛知県内で新しく発見されたヌノメカワニナの生息地. ちりぼたん, 23(3): 74-75.
- Mori, S. 1938. Classification of Japanese Pisidium. Memoirs of the College of Science, Kyoto Imperial University, Ser.B, 14(2): 254-278, pls.7-11.
- Mori, S. 1938. Classification of the Japanese Planorbidae. Memoirs of the College of Science, Kyoto Imperial University, Ser.B, 14(2): 279-300, pls.12-18.
- Morton, B. 1986. Corbicula in Asia - an updated synthesis. American malacological Bulletin, special edition., (2): 113-124.
- 名古屋市動植物実態調査検討会 (監). 2004. レッドデータブックなごや2004—動物編一. 名古屋市環境局環境都市推進部環境影響評価室, 名古屋. 368pp.
- 名古屋市動植物実態調査検討会 (監), 2010. レッドデータブックなごや2010—2004年版補遺一. 名古屋市環境局環境都市推進部生物多様性企画室, 名古屋. 316pp.
- 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課. 2015. 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや2015—動物編一. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 名古屋. 504pp.
- 日本生態学会編. 2002. 外来種ハンドブック. 地人書館, 東京. 390pp.
- 野村卓之. 2005. 新潟市の陸・淡水産貝類相2. しぶきつば, 26: 13-16.
- 野村卓之・高橋 久. 2006. 河北潟地域の陸・淡水産貝類相. 河北潟総合研究, 9: 7-22.
- 野呂達哉・川瀬基弘. 2018. 名古屋大学構内の水田におけるマルタニシ *Cipangopaludina chinensis laeta* (Martens, 1860) の確認事例. なごやの生物多様性, 5: 119-120.
- 齊藤 匠・平野尚浩. 2017. 滋賀県から新たに記録されたヒロマキミズマイマイ. ちりぼたん, 47(1-4): 83-86.
- 齊藤 匠・平野尚浩・内田翔太・山崎大志 (2017) 石垣島および西表島におけるヒメヒラマキミズマイマイ (腹足綱: ヒラマキガイ科) の発見. Molluscan Diversity, 5(1-2): 79-82.
- 酒井治己・高橋俊雄・古丸 明. 2014. 日本産マシジミおよび外来タイワンシジミ類のアロザイム変異と淡水シジミ類の多様性. Venus, 72(1-4): 109-121.
- 酒井 類. 2002. 名古屋市守山区の淡水産貝類. かきつばた, (28): 15-17.
- 佐久間功・宮本拓海. 2005. 外来水生生物事典. 柏書房, 東京. 206pp.
- 田部雅昭・福原修一・長田芳和. 1994. 淡水産二枚貝ドブガイに見られる遺伝的II型. Venus, 53(1): 29-35.
- 田中守彦. 1959. 愛知県産淡水産貝類目録 (謄写版). 14pp.
- 田中守彦. 1964. 名古屋市産淡水産貝類の研究 (謄写版).

20pp.

- 山田充哉・石橋 亮・河村功一・古丸 明. 2010. ミトコンドリアDNA のチトクロームb 塩基配列および形態から見た日本に分布するマシジミ, タイワンシジミの類縁関係. 日本水産学会誌, 76(5): 926-932.
- 吉成 暁・野村卓之・増田 修. 2010. 近年日本で確認された外来ヒラマキガイ科貝類. 兵庫陸水生物研究会, (61/62): 155-164.

標本説明

1. マルタニシ *Cipangopaludina chinensis laeta* (Martens, 1860) [Scale bar : 60 mm]
2. オオタニシ *Cipangopaludina japonica* (Martens, 1860) [Scale bar : 60 mm]
3. ヒメタニシ *Sinotaia quadrata histrica* (Gould, 1859) [Scale bar : 60 mm]
4. スクミリンゴガイ *Pomacea canaliculata* (Lamarck, 1819) [Scale bar : 60 mm]
5. マメタニシ *Parafossarulus manchouricus japonicus* (Pilsbry, 1901) [Scale bar : 15 mm]
6. ヌノメカワニナ *Melanoides tuberculata* (Muller, 1774) [Scale bar : 30 mm]
7. カワニナ *Semisulcospira libertina* (Gould, 1859) [Scale bar : 40 mm]
8. チリメンカワニナ *Semisulcospira reiniana* Brot, 187 [Scale bar : 40 mm]
9. ヒメモノアラガイ *Galba ollula* (Gould, 1859) [Scale bar : 20 mm]
10. コシダカヒメモノアラガイ *Galba truncatula* (Muller, 1774) [Scale bar : 15 mm]
11. ハブタエモノアラガイ *Pseudosuccinea columella* (Say, 1817) [Scale bar : 20 mm]
12. モノアラガイ *Radix (Radix) japonica* Jay, 1857 [Scale bar : 20 mm]
13. モノアラガイ属の一種A *Radix* sp. A [Scale bar : 20 mm]
14. モノアラガイ属の一種B *Radix* sp. B [Scale bar : 20 mm]
15. サカマキガイ *Physa acuta* (Draparnaud, 1805) [Scale bar : 20 mm]
16. ヒラマキミズマイマイ *Gyraulus chinensis* (Dunker, 1854) [Scale bar : 12 mm]
17. ヒメヒラマキミズマイマイ *Gyraulus pulcher* (Mori, 1938) [Scale bar : 5 mm]
18. ヒラマキガイモドキ *Polypylis hemisphaerula* (Benson, 1842) [Scale bar : 8.5 mm]
19. クルマヒラマキガイ (レンズヒラマキガイ) *Hippeutis cantori* (Benson, 1850) [Scale bar : 12 mm]
20. ヒロマキミズマイマイ *Menetus dilatatus* (Gould, 1841) [Scale bar : 8.5 mm]
21. カワネジガイ *Camptoceras hirasei* Walker, 1919 [Scale bar : 7.5 mm]
22. カワコザラガイ *Laevapex nipponica* (Kuroda, 1947) [Scale bar : 6 mm]
23. イシガイ *Unio (Nodularia) douglasiae nipponensis* v. Martens, 1877 [Scale bar : 50 mm]
24. オバエボシガイ *Inversidens brandti* (Kobelt, 1879) [Scale bar : 50 mm]
25. マツカサガイ *Inversidens (Pronodularia) japonensis* (Lea, 1859) [Scale bar : 50 mm]
26. トンガリササノハガイ *Lanceolaria grayana* (Lea, 1834) [Scale bar : 50 mm]
27. カタハガイ *Obovalis omiensis* (Heimburg, 1884) [Scale bar : 50 mm]
28. タガイ *Anodonta japonica* Clessin, 1874 [Scale bar : 60 mm]
29. ヌマガイ *Anodonta lauta* Martens, 1877 [Scale bar : 75 mm]
30. マシジミ *Corbicula leana* Prime, 1864 [Scale bar : 50 mm]
31. タイワンシジミ *Corbicula fluminea* (Muller, 1774) [Scale bar : 50 mm]
32. タイリクシジミ *Corbicula fluminalis* (Muller, 1774) [Scale bar : 50 mm]
33. ウエジマメシジミ *Pisidium (Odhneripisidium) uejii* Mori, 1938 [Scale bar : 6 mm]
34. ドブシジミ *Sphaerium japonicum* (Westerlund, 1883) [Scale bar : 15 mm]

